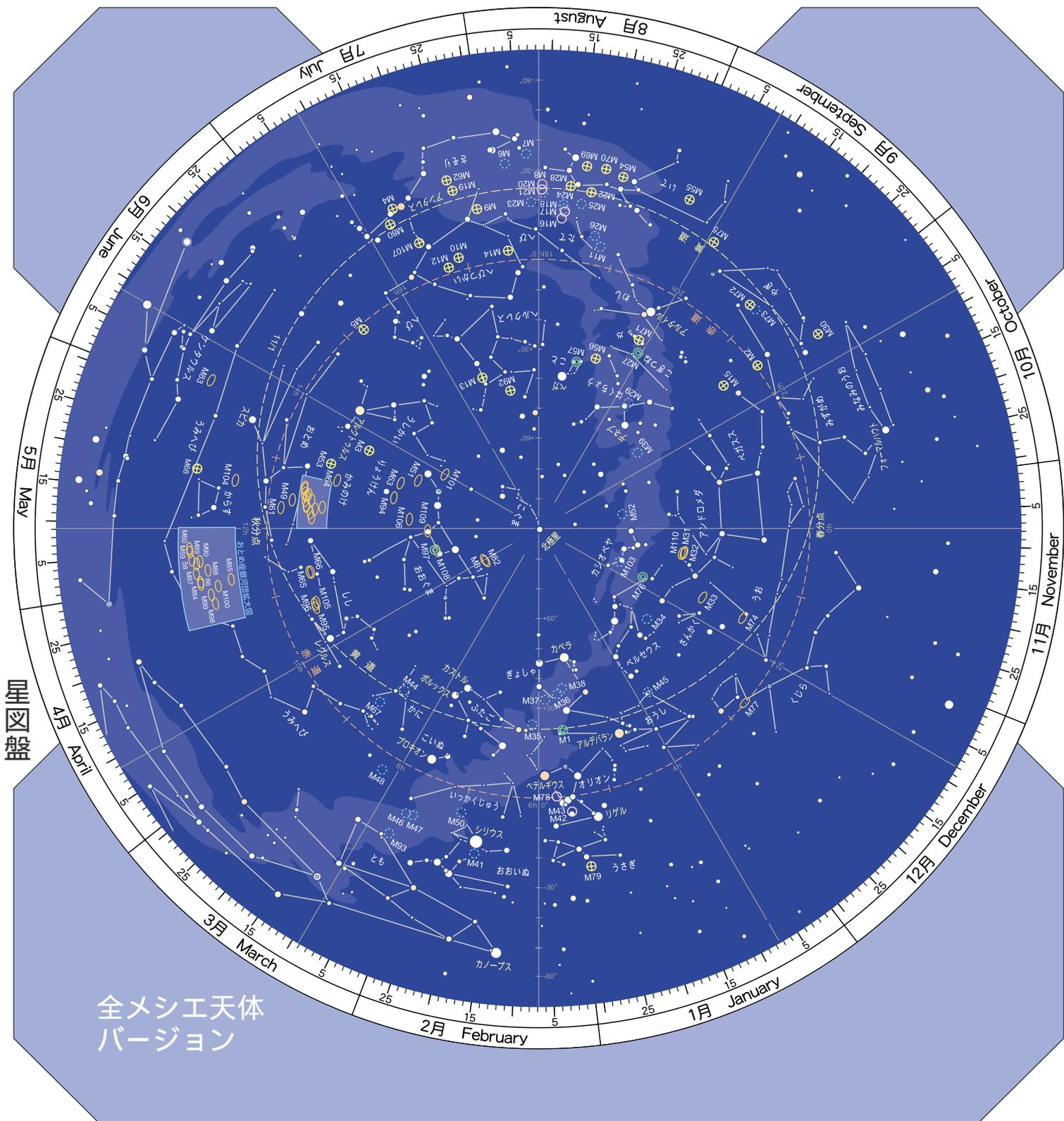


星ナビオリジナル

# 自作星座早見盤

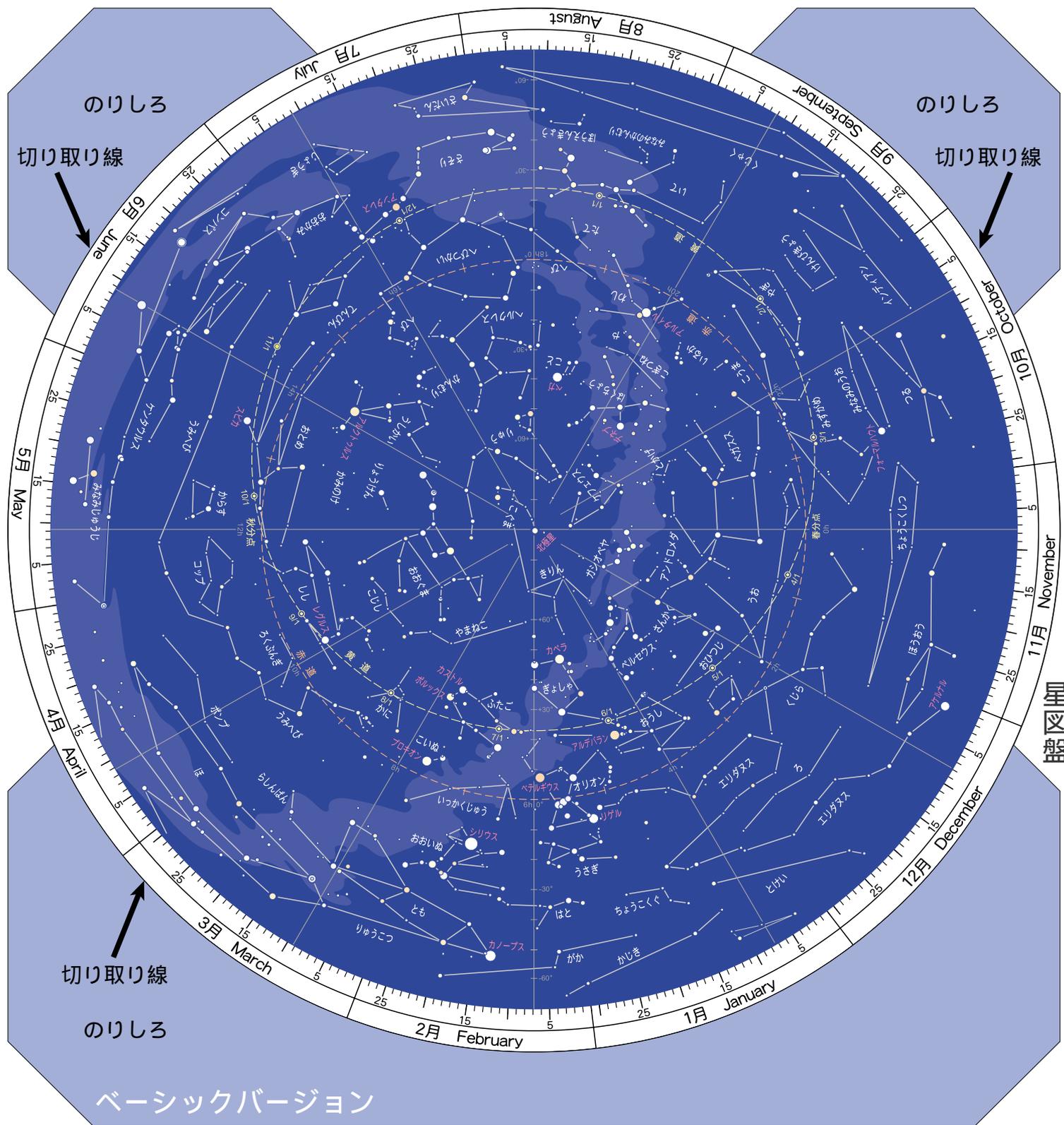


全メシエ天体  
バージョン

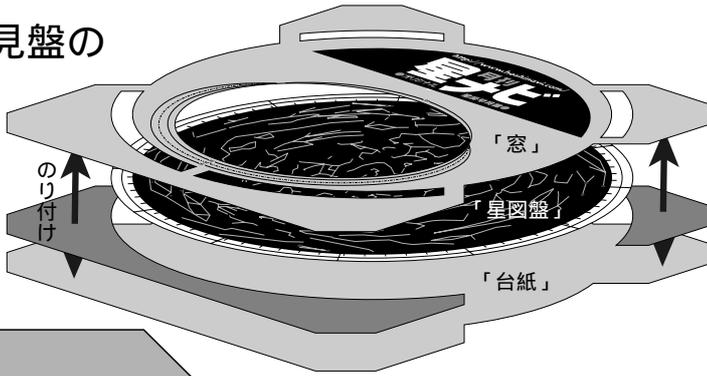
星ナビ

この星座早見は、南側に夜の時刻(21時)の目盛りがあるので、使いやすくなっています。  
また、オリジナルの星図盤に貼り変えて使うこともできます。

星図盤はステラナビゲータ5の星図機能を利用して作成されています。  
また、星ナビ4月号p74の「ステラで再現」で、オリジナルの星図盤を作成するヒントを紹介しています。



# 自作星座早見盤の 組み立て方

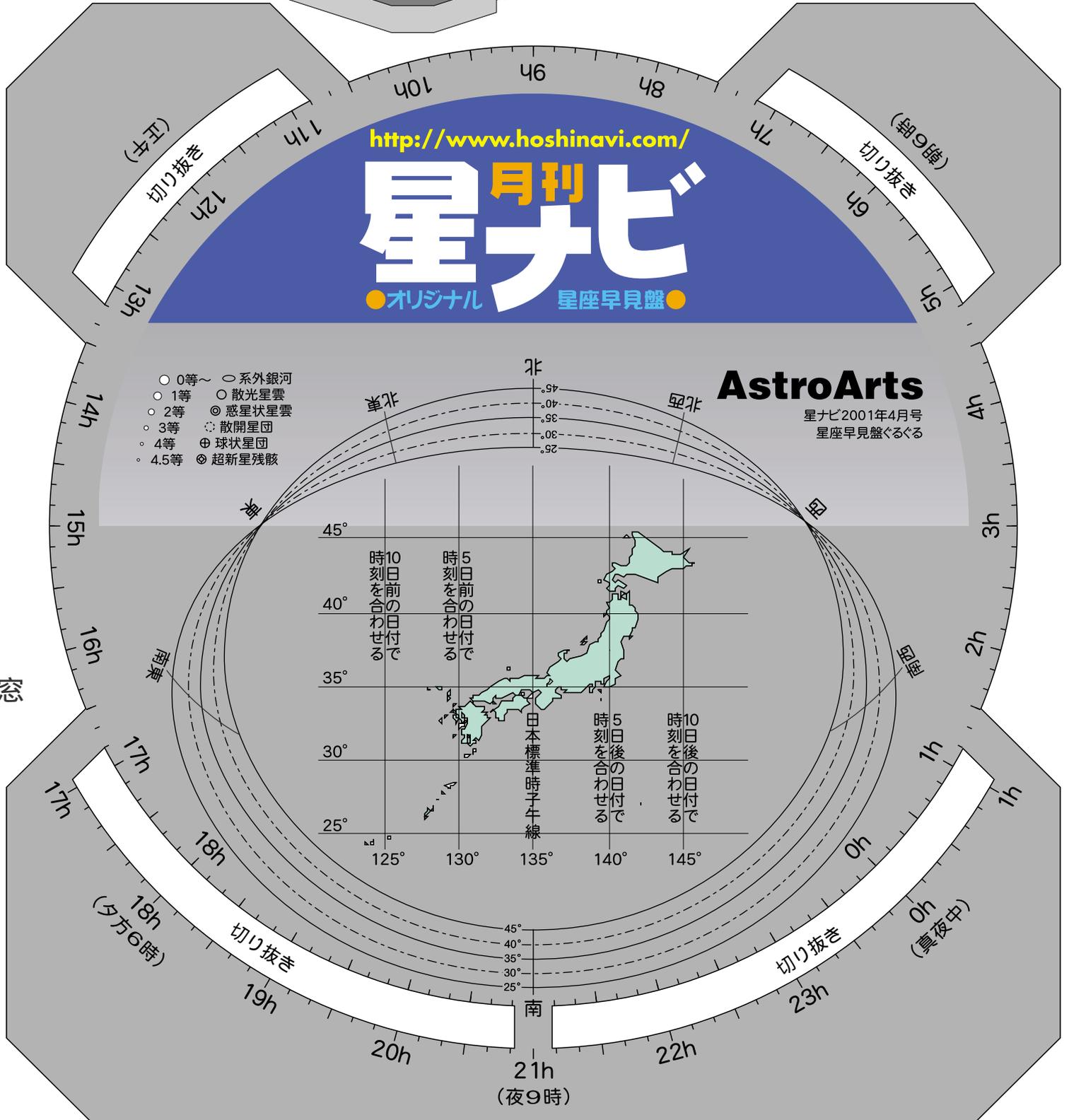


「窓」と「星図盤」をボール紙に貼り付けてから、切り取り線にそって切り取ります。

「窓」は、目盛の部分と、住んでいる場所の緯度に合わせて地平線を切り抜きます。「星図盤」は円形に切り取ります。ほかに、「窓」と同じ形の「台紙」もボール紙で作ります。

「台紙」に、の枠を貼り付け、「星図盤」をはさむようにして、に窓を貼り付けます。

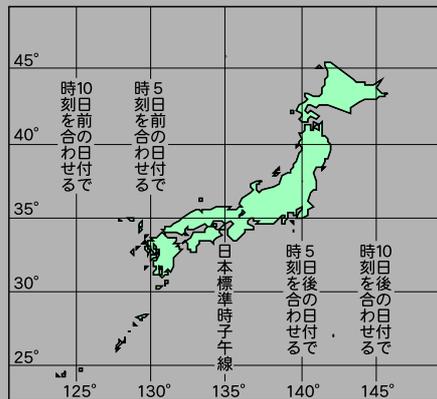
刃物を使うときは、ケガをしないように注意してください。



<http://www.hoshinavi.com/>

# 星ナビ

●オリジナル 星座早見盤●



## 四季の星座を楽しもう

**春の星空** ～春の大曲線を見つけよう～ ☆3月15日0時こる 4月15日22時こる 5月15日20時こる

春の星座探しの出発点は、北の空高くのぼった7個の星が形作るひしゃくの姿「北斗七星」です。ひしゃくの柄のつらなりを、そのままのばすと、二つの明るい星に出会えます。はじめの黄色味をおびた星は、うしかい座のアルクトゥルス、二つ目の真っ白に輝く星は、おとめ座のスピカで、ともに春を代表する1等星です。北斗七星からつらなるこの大きな曲線を「春の大曲線」といいます。また、この曲線の円弧の中心付近に輝く1等星は、しし座のレグルスです。なお、かみのけ座、おとめ座あたりにはたくさんの銀河が密集していますが、天体望遠鏡でないと見えません。

**夏の星空** ～夏の三大三角形を見つけよう～ ☆6月15日0時こる 7月15日22時こる 8月15日20時こる

夏の夜空の一番の見ものは、南の地平線から立ちのぼるひときわ明るい天の川の流れです。さそりの尾からはくちょうを抜けて、カシオペアにたどり着くころには、ずいぶんと淡くなりますが、それがかえって座付近の明るさを強調しとても見事ななごめです。頭の真上ちかくの天の川の両岸に輝いている2つの1等星は、七夕物語で有名な織姫（ベガ）と彦星（アルタイル）です。この2つの星と、はくちょう座の1等星デネブとで作る「夏の三大三角形」は、星座探しの出発点としては、とてもわかりやすい星のならびです。夏は、1年中で最も流星が多い時期なので、星座探しの間にいくつもの流星を見ることができそうです。

**秋の星空** ～秋の四辺形を見つけよう～ ☆9月15日0時こる 10月15日22時こる 11月15日20時こる

1年のうちでもっともさびしい秋の星空には、1等星が一つしかありません。みなみのうお座のフォーマルハウトで、南の空にポツンと輝く姿は、いかにもさびしげで、それがとても印象的ですが、周囲に明るい星がないので星座探しの目印には使えません。そこで使われるのが、頭の真上あたりに見える「秋の四辺形」です。この四角形は2等星でできていますが、その中には明るい星がないのでよく目立ちます。4個の星を結んだ各辺をそれぞれの方向にのばしてみると、秋の星座を次々に探し出すことができます。また、四辺形のすぐ東にはアンドロメダ大銀河があり、肉眼でもポーッとした姿を確認できるでしょう。

**冬の星空** ～冬の三大三角形を見つけよう～ ☆12月15日0時こる 1月15日22時こる 2月15日20時こる

1年のうちで最も華やかなのが冬の星空です。全天一の明るさを誇るおおいぬ座のシリウスを筆頭に、南の地平線にわずかに顔をのぞかせるりゅうこつ座のカノープスまで、8個もの1等星が澄みきった夜空に輝いています。淡い冬の天の川をはさみ込むように並んだ「冬の三大三角形」が、冬の星座探しの出発点となりますが、ぎょしゃ座の五角形、オリオン座の三つ星、ふたご座のカストル、ポルックス兄弟など、目立つ星の並びが豊富ですから、星座探しは簡単です。また、オリオン座の三つ星の南にあるオリオン大星雲は肉眼でも見えますので、星座探しのついでに見ておきましょう。

アストロアーツ 星ナビ編集部